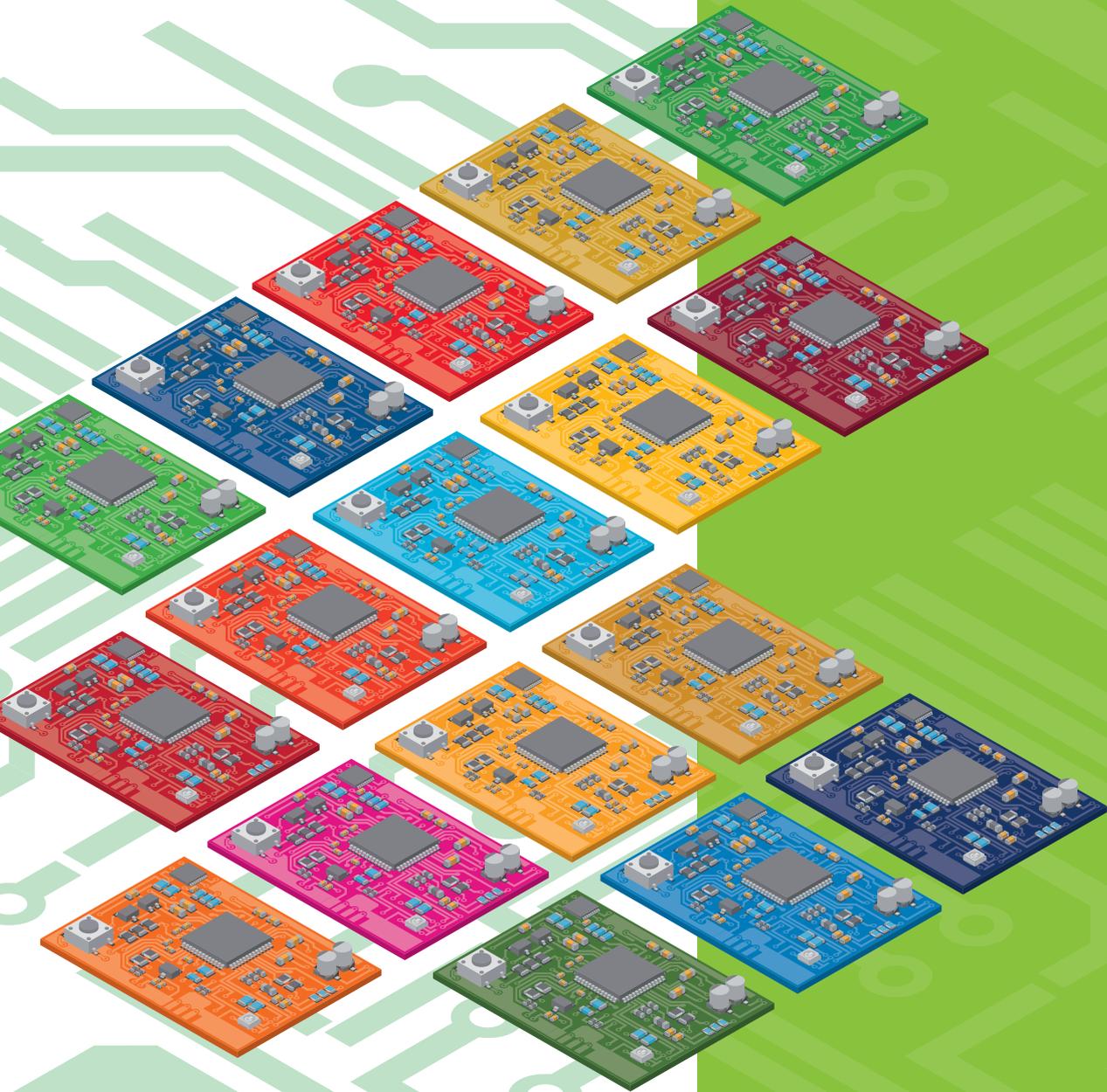


2021

CMK Report



発展と永続

基本理念

私たちCMKグループは、社員の精神的・物質的幸福を追求すると共に、自覚と責任をもって安全安心な製品を製造販売し、存在価値を高め、社会の発展に貢献します。

経営方針

1. 公明正大なものづくりを実践する。
2. 環境の変化を先取りし、柔軟に対応できる活力のある職場をつくる。
3. 拠点、部門、立場、国籍などの個人の属性にとらわれず、お互いを尊重し、よく考え、よく話し、理解を深め一致協力して利益をつくる。
4. 品質向上を日課として歩留まり改善と品質保証体制の強化に努める。
5. 生産工場の稼働率を高める。
6. 資源を効率的に使うと共に、環境保全を推進する。
7. 将来にわたりプリント配線板の開発製造販売を継続し、お客様と社会の役に立つ。

CONTENTS

| | | |
|-------------------------|------------------------|-----------------|
| 01. 社是・基本理念・経営方針 | 11. コーポレートガバナンス&マネジメント | 24. 顧客ニーズ対応 |
| 02. トップメッセージ | 13. 情報セキュリティ | 25. 社会貢献 |
| 03. 暮らしと未来をつなぐプリント配線板 | 14. 環境保全 | 26. CMKグループ事業拠点 |
| 05. プリント配線板を支える信頼と技術 | 18. 公正な取引 | 27. 業績・財務ハイライト |
| 07. トピックス | 19. 人権・労働 | 29. 会社概要 |
| 09. CSR推進体制 | 21. 安全衛生 | 30. 株式の状況 |
| 10. 2020年度 活動テーマと取り組み状況 | 23. 品質・安全性 | |

本文中のグループ会社 社名略称表記等

：シイエムケイ・プロダクツ(株)=CMKプロダクツ

：希門凱電子(無錫)有限公司=CMK無錫

：CMK CORPORATION (THAILAND) CO.,LTD.=CMKタイ

：新昇電子(香港)有限公司=CMKC (HK)

トップメッセージ

■持続可能な社会を実現するために

令和2年（2020年）は、新型コロナウイルスが全世界で猛威を振るい、私たちの健康だけでなく、社会・経済活動が脅かされる忍耐の1年となりました。また、近年は、気候変動が引き起こす自然災害が世界各地に甚大な被害をもたらし、日本においても毎年のように多くの災害が発生しています。亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、世界各地で新型コロナウイルス感染防止に向けて最前線で尽力されている皆様および復旧作業に日夜従事されている皆様に心から敬意を表します。

昨今、SDGsに対する社会的注目度が上がり、環境問題や社会課題をはじめとする人類共通の諸課題に対する意識が世代を問わず高まっています。企業もまた「持続可能な社会の実現」のために、これらの課題にどのように向き合うか注視されている状況です。

当社グループにおいても、2020年より中長期環境行動計画として「Smart e-changes30」を策定し、2050年までにCO₂排出量の80%削減（2013年度比）を目標に掲げ、その有害物質の排出抑制をはじめとする各種取り組みも推進しています。

当社は創業以来、社是として掲げてきた「発展と持続」の精神のもと、事業を通じ如何にステークホルダーの皆様の期待にお応えし続けていくかを命題とし、製品を通じて人々の暮らしを支えてまいりました。「持続可能な社会の実現」のためには新たな価値を創出し続けることが必要であり、業績はもとよりSDGsやESGなどの非財務活動への取り組みを一歩ずつ着実に進めてまいります。国際社会はコロナ禍で大きく揺れていますが、アフターコロナに訪れる新たな社会・価値観に適応するため、当社グループはあらためて「発展と持続」の精神を大切にし、社会が必要とする価値を創出し続けてまいります。

■アフターコロナに向けて

コロナワクチンが普及し始めましたが、変異株の影響などから感染拡大に歯止めがかからず、日本経済および世界経済の先行きは依然として不透明で予断を許さない状況となっています。当社グループはやがて訪れるアフターコロナ下の新たな社会・価値観に適応するため、複数の分野における抜本的な構造改革に取り組み、引き続き企業品質の向上に努めてまいります。

■未来に向けて責任を果たす

2021年7月23日、約1年の延長を経て、東京オリンピックが開催されました。かつて、「近代オリンピックの父」クーベルタンはオリンピックの精神について「スポーツを通して心身を向上させ、文化・国籍など様々な違いを乗り越え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって、平和でよりよい世界の実現に貢献すること」と唱え、また、ジャック・ロゲ第9代IOC会長は選手に対して「責任のない栄光は存在しない」と世界の若者の手本であることの自覚を促しています。これらの至言は企業活動にも当てはめることができます。当社は創業から約60年の歴史の中で、様々な社会混乱や経済不況に見舞われ、幾度も存在意義を問われる中で、今日まで自己を磨き続けてまいりました。これからも、連綿と受け継いできた「発展と持続」の精神を原点に据えながら、「持続可能な社会の実現」に向けて責任を果たし、皆様とともに歩んでまいります。



代表取締役社長 大澤 功

Creating the future



～「生きる」を支える～

暮らしと未来をつなぐプリント配線板



プリント配線板を支える信頼と技術



ボディ・快適系

メーターパネル
エアコン
パワーウィンドウ
ヘッドライト

実績

貫通多層/IVH
高放熱配線板
PPBU配線板



パワー・トレイン系

ハイブリッドECU
エンジンECU

実績

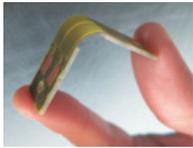
貫通多層/IVH
PPBU配線板



高信頼性

高信頼性リジッド・フレックス配線板 CARFTシリーズ

- エンジン近接の狭スペースにも、折り曲げ可能な配線板を提供します
- より高い信頼性要求に対応します



高精度センサー対応

高周波対応配線板

- 79GHz帯域の高精度センサー用途として提供します
- アンテナとコントローラーの一体化要求に対応します



ADAS・自動運転化への提案

ADASの普及と自動運転の実現に向けて「自動化」「電動化」「コネクティッド化」をキーワードに高機能かつ高信頼性のプリント配線板を提案します

ミリ波レーダー/センシングカメラ/レーザーレーダー (LiDAR) /赤外線・ソナー

外界センサー

LEDヘッドランプ

外界センサー補完

通信デバイス

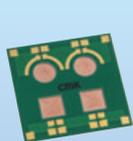
運行支援・通信システム



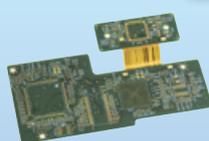
▲ 高周波対応配線板



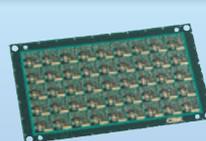
▲ 貫通多層/IVH



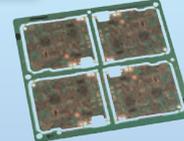
▲ CMK-COMP



▲ リジッド・フレックス配線板
▲ CARFTシリーズ



▲ 薄型モジュール配線板 (HDI)



▲ PPBU配線板 (HDI)



微細・薄型
3D構造
高周波・高放熱
高信頼性



情報系

車載用
TVモニター

実績

貫通多層/IVH
PPBU配線板
リジッド・フレックス配線板

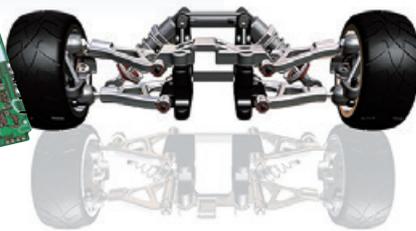
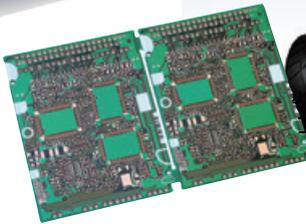


走行・安全系

ABS 電動パワステ
VSC エアバッグシステム

実績

貫通多層/IVH
PPBU配線板



放熱・パワエレ対応

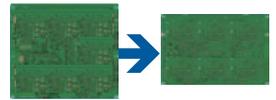
高放熱/大電流プリント配線板 CMK-COMP

- 高い放熱性を付加したプリント配線板を提供します
- 実装部品の発熱による問題を解決します
- 厚銅配線板を用いて、大電流要求にも対応します

小型化・ファイン化

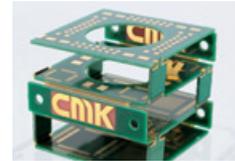
貫通ファイン仕様

- 搭載BGA端子の狭ピッチ化に対応します
- 配線密度の向上に対応します



フレキシブル化

リジッド・フレックス配線板



- コネクタレスで折り曲げ可能な配線板を提供します。三次元設計による製品の小型化に寄与します
- ワンセット・ワンボード化により、トータルコストの抑制も可能です
- コネクタレスにより、振動等によるノイズ発生を抑制します

航空宇宙分野への取り組み

自動車分野で培った高信頼性プリント配線板技術を航空宇宙分野へ提案します



Topics 1

CSR取り組みワークショップ「Gentle Wind」設置 【黒沢副社長とメンバー対談】

2021年3月、CSR活動のさらなる推進を目的とし、CSR推進会議事務局の担当者からなるワークショップが発足し取り組みを開始しました。始動にあたり行われたCSR担当で副社長の黒沢とメンバーとの対談内容について、一部抜粋したものをご紹介します。



取締役副社長
黒沢 明
CCO、CSR担当



CSR担当役員とWSメンバー（20代から60代までの各世代で構成）との対談風景

ワークショップ(以下WS)メンバーから黒沢副社長への質問&回答

Q.【WSを設置した狙いはどこにありますか、またどのようなことを期待していますか？】

A. 現在、当社では全社的に小集団活動を推進しています。これは各職場など身近な所から自律的に課題を取り上げ、改善していく仕組みづくりと人材育成を目的としていますが、サステナビリティ分野においても従業員の視点から自律的な学習機会を設ける必要があると考え、WSを設置しました。各メンバーには社会課題への認識を深めつつ、女性活躍や働き方改革など職場レベルで、なおかつ等身大の問題として深く考えていただく機会とし、最終的には当社における課題などを提言してもらいたいと期待しています。

Q.【WSメンバー構成がユニークですね？】

A. 当社の基本理念の中で「従業員の幸福の追求」とうたっているとおり、企業としてのパーパス（存在意義）と従業員にとってのやりがいや幸せのベクトルを合わせることが重要であると考えています。そのため、メンバーの選任にあたっては各世代から幅広く選ぶこと、未婚、既婚、子育て中の母親や介護中の立場の方など、それぞれバックグラウンドが異なるメンバーを選ぶことの2点を重視しました。さまざまな従業員の代弁者として、さらに人材育成や女性活躍など活発な議論を期待しています。

黒沢副社長からWSメンバーへの問いかけ

Q.【皆さんのモチベーションや会社への期待する点など、教えてください？】

A. (WSメンバーからの回答内容について、エッセンス等を抜粋掲載)

- ・ 社会の一員として、課題に対し身近な所から積極的に変化を起こしていきたい。WS活動を通し現状を把握し変えていく契機としたい
- ・ 子育てをしながら社会の第一線で活躍できること、誰かの役に立てているという実感がモチベーションである
- ・ 職種や拠点環境の違い、世代間の価値意識の違いを含め、多様な考えに触れながらコミュニケーションがとれることが刺激でありモチベーションとなっている
- ・ 社内公募制度等の活用など自身をリセットするオプションがあり、環境を変え種々貢献の仕方もあるのだと実感した
- ・ 介護、育児等各種制度が整備されているものの、制度を知らない従業員も少なく今後の浸透活動が課題と思われる
- ・ 当社でも年齢層の偏りがあり、育成課題を踏まえシニア層の活躍も重要なのではないと思う。経験値等から会社にとって欠かせない知識も豊富であり、自身も各種勉強となっており、若い世代とシニア層との協働が必要と感じている
- ・ 他部門への貢献、職場の良好な人間関係が活力。従業員のニーズと会社の価値意識の相違点等を定期確認する必要がある

対談を終えて

今回、メンバーそれぞれのモチベーションや会社へ何を期待するかを意見交換すると同時に、会社としてのパーパス（存在意義）や価値意識（バリュー）の説明は、とても腑に落ち納得ができました。また、個々の細かい質問に対しても一つひとつ飾ること無くわかりやすい説明があり、会社が考えていることや課題についても理解が進み、大変有意義で貴重な機会となりました。

今後、あらためて社会課題を背景にWS内でもサステナビリティに係る勉強を進める中で、従業員が自分事として捉えられるよう、課題を共有していきたいと考えています。

(WSメンバー代表記)

Topics 2

CMKイノベーションセンターの開設

2020年9月、最先端技術の研究・開発の強化をはかるとともに、地球環境に配慮した製造技術の導入、多品種少量生産ラインの構築を目的に新潟工場内に新たな開発拠点として、「CMKイノベーションセンター」を開設しました。なお、この名称は従業員から公募の形をとり、多数応募の中から決定したものです。

当センターの開設により、一元的な開発環境の実現と生産現場により近い環境を活かし、市場経済の変化に柔軟に対応することで社会要請に呼応して、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を目指します。



Topics 3

SDGs推進私募債発行による寄付

2020年9月に株式会社りそな銀行を引受先とする「SDGs推進私募債」を発行し、長岡技術科学大学に寄付しました。

本寄付金は実践的技術者、研究者および高度な工学教育の担い手を育成するため、留学生の奨学金として活用されます。

引き続き事業活動を通じて、持続可能な社会の実現に向けて貢献できるよう努めてまいります。



Topics 4

社用車（ガソリン車）の大幅削減

2016年度より、CO₂削減のためにガソリン車からハイブリッド車への移行を進めており、2020年度にはガソリン車の使用台数を10%以下に削減しました。同時に社用車の適正台数を割り出し、必要な台数分のみ所有することで不要なCO₂排出を防止しています。

また、社用車として電気自動車を導入・提供することで従業員の環境に対する意識向上をはかっています。これからも身近なところからCO₂削減に貢献してまいります。



CSR推進体制

社是である「発展と持続」のもと、当社の存在意義からも持続的な成長と中長期的な企業価値の創出を追求するべく、事業を通じ社会課題と真摯に向き合い、CSR活動を積極的に推進し取り組んでまいります。

CMKグループ行動宣言 (原文より要旨抜粋)

社会とともに

当社は、社会との調和共存をはかるために、社会との相互理解を深め、信頼関係を築く活動を積極的に行います

お客様とともに

良き企業活動の根本はお客様の支持を得ることにあります
確固たる支持を受け続ける企業となるべく、行動します

株主様とともに

当社の真の姿が理解され、多くの方に株主様となっていただくことが、さらなる発展の礎となります。当社は公正に情報を開示し、株主様の共感を得る活動に努めます

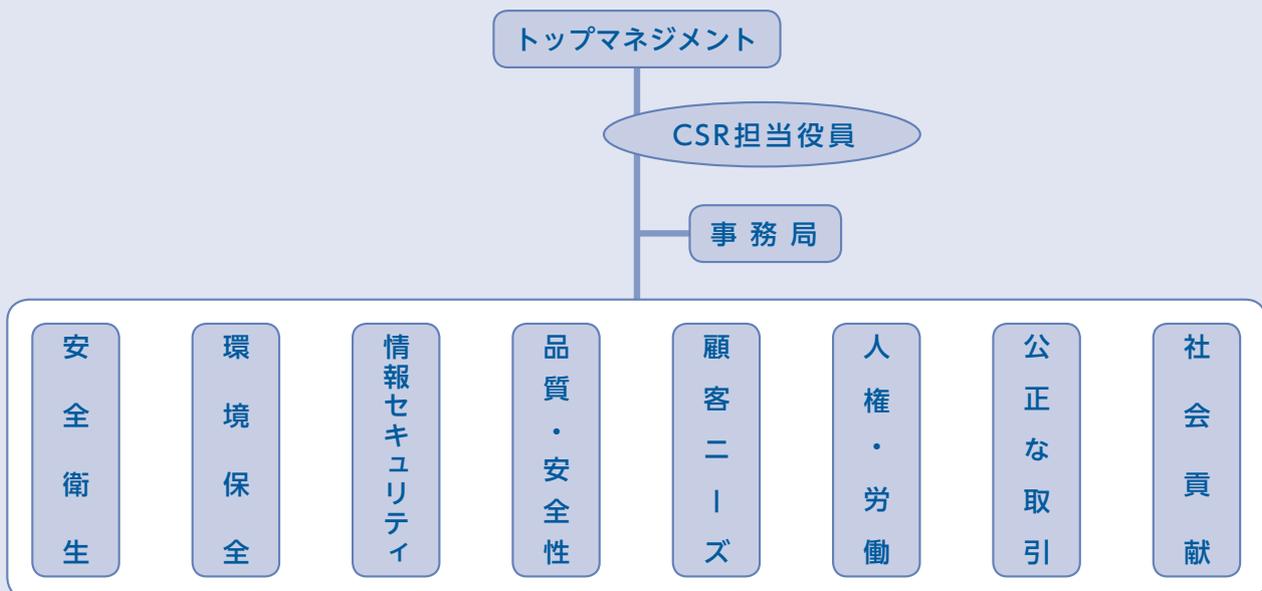
お取引先様とともに

当社は、支援していただけるお取引先との良きパートナーシップがあつてこそ、繁栄が訪れると考え、行動します

社員とともに

発展の原動力は社員の活躍です。活躍した社員を正當に遇することが、さらなる発展を生みます。当社内外で活躍しうる人材作りと社員の成長を推し進めます

CSR担当役員を議長とし、CSR関係部門を構成メンバーとした「CSR推進会議」を定期的開催し、同会議によりCSR活動の方向付け、進捗状況評価、経営層での共有など、必要な展開を行っています。なお、各推進分野の検討項目はISO26000やSDGsなどCSRに関する国際的な指標類（ガイドライン）を用いたうえ、ステークホルダーのみなさまのご意見を参考として分類しています。



会議構成部門・・・人事部、総務部、経理部、情報システム部、調達部、品質保証部、開発部、製造本部、営業業務部（営業本部）
(2021年4月1日現在)

2020年度 活動テーマと取り組み状況

以下のとおり活動テーマを掲げ取り組みを進めています。
2020年度の活動内容の一部を各ページに掲載しています。

CSR活動領域における状況

| ESG | ISO26000 中核主題 | 活動テーマ | 2020年度 評価 | 主な活動(課題)内容 | SDGs |
|------------|-----------------------|-------------------|-------------------------|---|----------------------------|
| G ガバナンス | 組織統治 | 企業価値向上 | | コーポレートガバナンス対応 内部統制リスクマネジメント体制 IR活動、株主・投資家とのコミュニケーション | |
| | | 情報セキュリティレベルの維持・向上 | | 機密情報の情報漏えいリスク軽減に向けた取り組み 自己評価による改善活動 マイナンバー制度に対する取り組み | |
| S 社会 | 人権・労働慣行 | ダイバーシティの推進 | | 外国人採用の推進 障がい者雇用の促進 女性従業員のキャリア形成の推進 | |
| | | グローバル人材育成 | | 海外留学制度の推進 ゼネラリスト(多能工)の育成 | |
| | | 従業員の安全と健康 | | 職場安全環境の確保と向上 メンタルヘルス課題への取り組み | |
| | | ワーク・ライフバランス | | 育児、介護休業の利用促進 各種休暇制度の利用促進 労働時間短縮への取り組み | |
| | 公正な事業慣行 | BCPの推進 | | 国内外BCP体制強化 | |
| | | 公正な取引 | | CSR調査の実施 独占禁止法および下請法についての教育実施 | |
| | 消費者課題 | 顧客ニーズに即した製品開発 | | 新製品開発の推進 | |
| | | 顧客ニーズ対応 | | CS調査の実施 お客様からの評価・満足度向上 製品安全性確保に向けた信頼性の評価 展示会への継続出展 | |
| | | 製品の品質向上・安全性の確保 | | 統合マネジメントシステム体制構築・定着化 | |
| | | 技術イノベーション | | AI・ロボット活用・省人化等、ニーズに対応したイノベーション | |
| | コミュニティへの参画及びコミュニティの発展 | 地域社会への貢献 | | 地域貢献活動の推進 地域コミュニティとの関わり推進 | |
| | E 環境 | 環境 | CO ₂ 削減活動の実施 | | スコープ3への対応 省エネ推進計画に則った活動 |
| 環境負荷物質の管理 | | | | 法規制、顧客要求に応じた化学物質管理 | |
| 生物多様性保全活動 | | | | 地域に密着した生物多様性保全活動の推進 | |
| 廃棄物の削減 | | | | ゼロエミッション活動の推進 | |

※SDGs(持続可能な開発目標)と当社取り組みテーマの関連性を示すため、各項目に対応したアイコンを表示しています。

持続可能な開発目標 (SDGs) への取り組み



2015年9月、国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」は、貧困、環境、教育、雇用など17のゴールと169のターゲットから構成され、2030年までに達成を目指す世界共通の目標です。

当社は事業活動を通じて、持続可能な社会の実現に向けて貢献できるよう努めてまいります。

コーポレートガバナンス&マネジメント

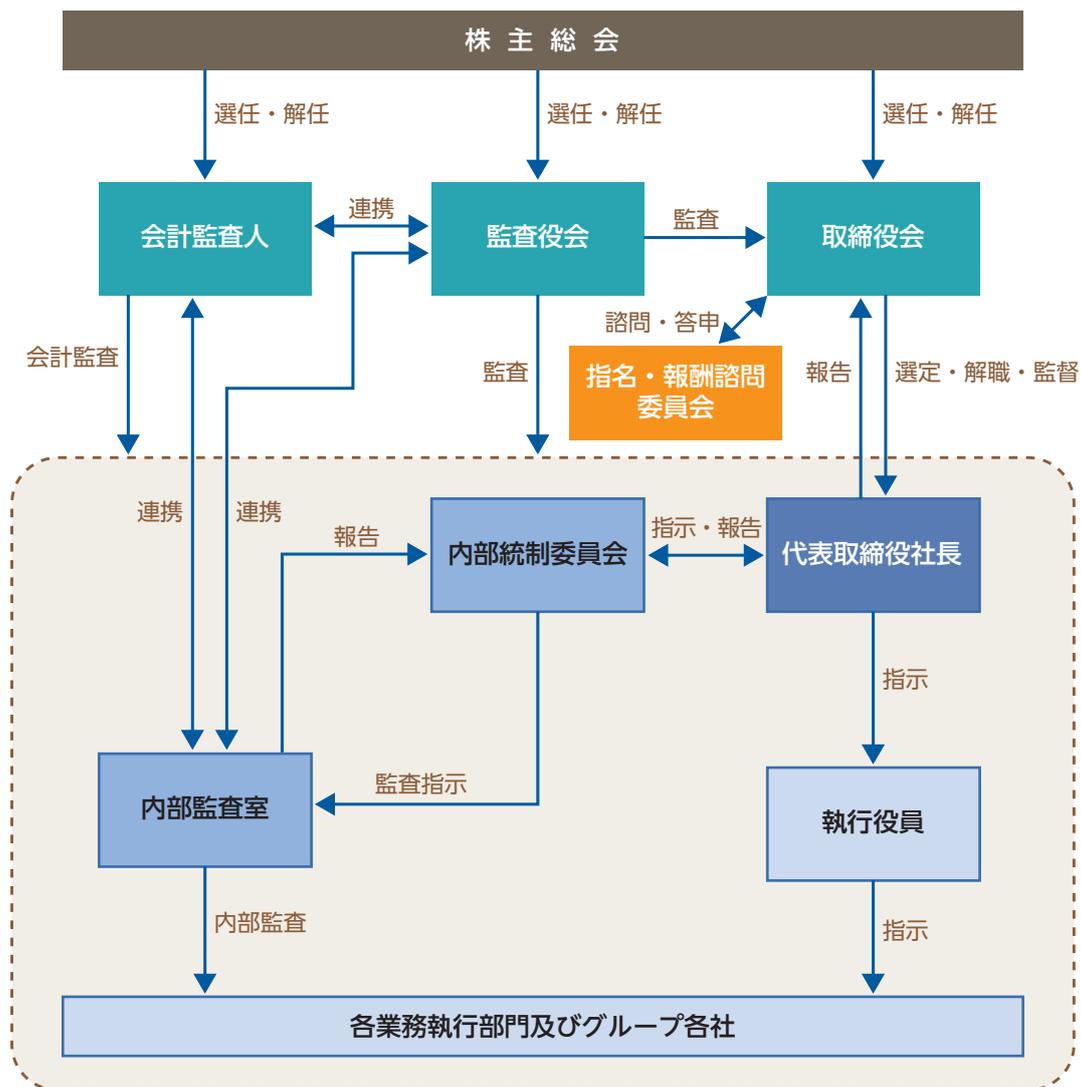
コーポレートガバナンス体制

当社は監査役制度を採用しており、取締役9名（うち3名は社外取締役）および監査役4名（うち2名は社外監査役）により、取締役会および監査役会を構成しております。また、執行役員制度の導入により、経営上の重要な意思決定と業務執行について、迅速かつ合理的に機能する体制を整え、権限と責任を明確にしています。

社外取締役は、客観的・中立的な視点から取締役会における意思決定を監視し、業務執行を監督しています。社外監査役は、取締役会への出席はもとより、取締役から経営上の重要事項に関する説明を聴取し意見を述べるとともに、取締役の職務の遂行について監査を行っています。この社外取締役による監督機能ならびに社外監査役の監査機能によって経営監視機能の客観性・中立性を確保しています。

また、取締役の指名・報酬に関する手続きの公正性・透明性・客観性を強化することを目的に、取締役会の諮問機関である指名・報酬諮問委員会を設置しています。同委員会は、社内取締役2名、独立社外取締役3名で構成され、独立社外取締役が委員長を務めています。

コーポレートガバナンス体制図

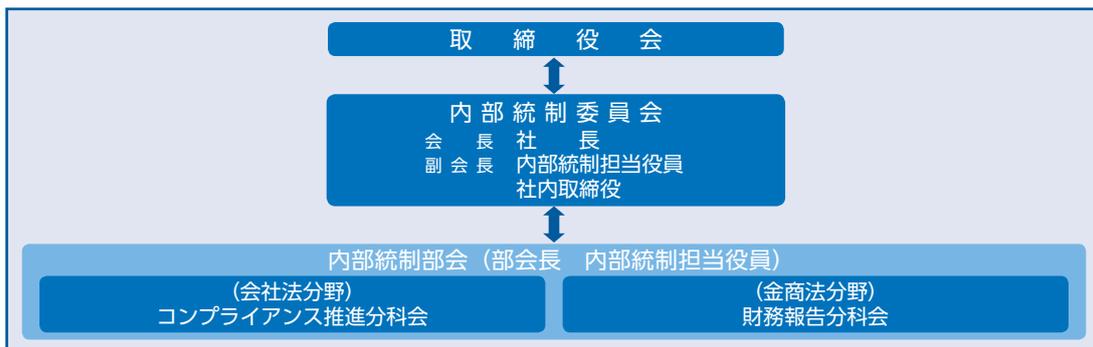


内部統制システム

取締役会のもと「内部統制に関する基本方針」に則し、体制を整備し継続的な取り組みを行っています。その諮問機関として社内取締役で構成する「内部統制委員会」を常設、内部統制システム推進のための枠組みや全体設計を担うとともに、その傘下に執行役員（本社機能を有する部門長等）を中心とした2つの分科会（「コンプライアンス推進分科会」、「財務報告分科会」）を設置し、それぞれ分野別に取り組みを進めています。各取り組み状況については、内部統制委員会により、整備状況および運用状況の確認・評価を行うとともに、取締役会へ定期的に報告を行っています。

なお、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制活動についても有効である旨を確認した「内部統制報告書」を開示しています。

(内部統制体制図)



リスクマネジメント体制

会社を取り巻くリスクに対処するため、全社横断的なリスク管理体制を整備するとともに、全社方針に基づきリスクマネジメントの強化をはかっています。不測時に備えては、発生の際に迅速かつ適切な対応が取れるよう「危機管理委員会」を設置、平時から体制の整備、運用上のシミュレーションや訓練等に取り組んでおり全社リスクマネジメントの強化に努めています。

さらには、有事対応の一環として事業継続対応への仕組み構築のため、社長直下に専任組織として「BCP推進室」を設置し、持続可能な発展と中長期的な企業価値創出に資するべく、仕組み化を推進しています。

コンプライアンス

コンプライアンスを経営の最重要課題と位置づけ、法令・定款および社会規範を遵守し、コンプライアンスに係る基準・体制の整備、浸透のための運用強化に取り組んでいます。

体制面では、CCO（チーフ・コンプライアンス・オフィサー）のもと、経営陣はもとより、すべてのグループ役職員のコンプライアンス意識の維持・向上をはかるべく取り組みを推進しています。

今年度の具体的な取り組みとして、管理職に対し情報セキュリティや危機管理などを含むコンプライアンス研修を実施した他、コンプライアンス意識や職場環境の状況把握のためのアンケートを全従業員に実施しました。また、内部通報制度の周知活動等ヘルプラインの強化と並行し内部監査部門による職場レベルでのモニタリングなど、コンプライアンス違反の兆候を見逃さない仕組みづくりを行っています。

なお、当社グループにおいて発生した未承認工程変更事案については、社外取締役を委員長とするモニタリング委員会と品質委員会に対して、再発防止策等の改善措置の進捗状況について、定期的に報告を行い、委員会による助言・指導を行うなどのモニタリング活動を実施しました。

情報セキュリティ

情報セキュリティに関する脅威がますます高度化・複雑化している中、当社はお客様からお預かりしている情報の保護が第一と考えています。情報資産を安全かつ確実に保護するため、情報漏えい・改ざんなどのリスク排除に向けた情報セキュリティ対策の維持・向上への様々な取り組みを実施しています。

方針・規程

当社は「情報セキュリティポリシー」「情報セキュリティ管理規程」を制定し、情報の適切な活用と保護体制を堅持するため、これを遵守しています。

個人情報の取り扱いについては「個人情報保護基本方針」「個人情報保護管理規程」「特定個人情報取扱規程」を制定し、情報紛失や不正利用の防止等の教育を実施し、安全対策を講じています。

2020年度は機密情報の定義を明確にし、情報の影響の大きさにより「秘」「厳秘」等に分類しなおすとともに、規程を一部改定し、機密情報の管理方法について厳格化しています。

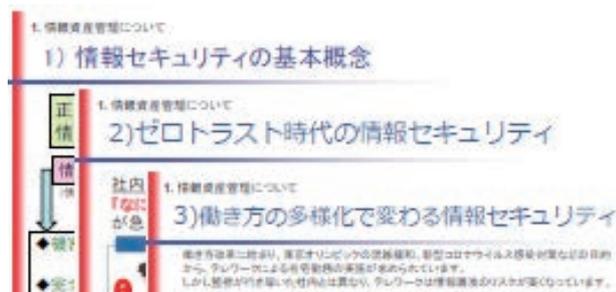
教育

従業員への啓発活動

日頃から従業員全員の情報セキュリティに関する意識を高めるため、最近流行のサイバー攻撃に関する手口や不審メールの見分け方、感染が疑われる際の対応手順などの内容を定期的に「情報システム部通信」で発信し、従業員の情報セキュリティ意識向上をはかっています。

情報セキュリティ研修

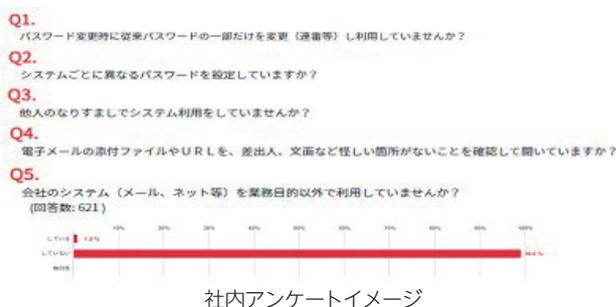
2020年度は、当社の全管理職向けに情報セキュリティについての研修を複数回実施し、厳格な管理を必要とする情報資産の重要性、情報漏えいが発生した際の影響、働き方の多様化で変わるセキュリティのポイントなどについて教育を行いました。



社内研修資料イメージ

アンケート実施

独立行政法人情報処理推進機構(IPA)から公開されている情報セキュリティ10大脅威をもとに、標的型攻撃やランサムウェアによる被害などの脅威に対し、社内規程に準じて適切に運用されているかの状況確認をアンケート形式で実施しました。回答結果から、規程の遵守状況や社内研修での浸透度合いなどを確認しながら、PDCAサイクルを回しつつ、今後も継続的に改善活動を行っていきます。



攻撃メール訓練

近年の情報セキュリティにおける特に高い脅威として、標的型攻撃による機密情報の窃取、ビジネスメール詐欺による金銭被害などがあげられています。このような攻撃に備えるため、従業員に実際の攻撃メールに似せた訓練用メールを発信し定期的に訓練を実施しています。不審メールへの対応方法など実際に体験することにより、意識向上をはかっています。

多様な働き方に向けて

在宅勤務など働き方の変化により、情報機器の社外への持ち出しが多くなっています。基本的に重要なデータはサーバ(クラウド)で保管をしておき、HDDの暗号化、BIOSの設定等も行っています。

VPN接続機器に関しては、最新のセキュリティ更新プログラムを適用し脆弱性の管理を適宜実施しています。またweb会議システムについても、適宜更新プログラムを適用し、パスワード設定や待合室機能での参加者確認などを実施しています。

環境保全

環境保全活動を経営の重要課題の一つと認識し、その基本姿勢を明確にするために、「環境基本方針」をもとに、「中長期環境行動計画」を策定し、環境保全活動を推進しています。地球との共生を果たしながら持続可能な社会の実現に向けて従業員一丸となり取り組んでいます。

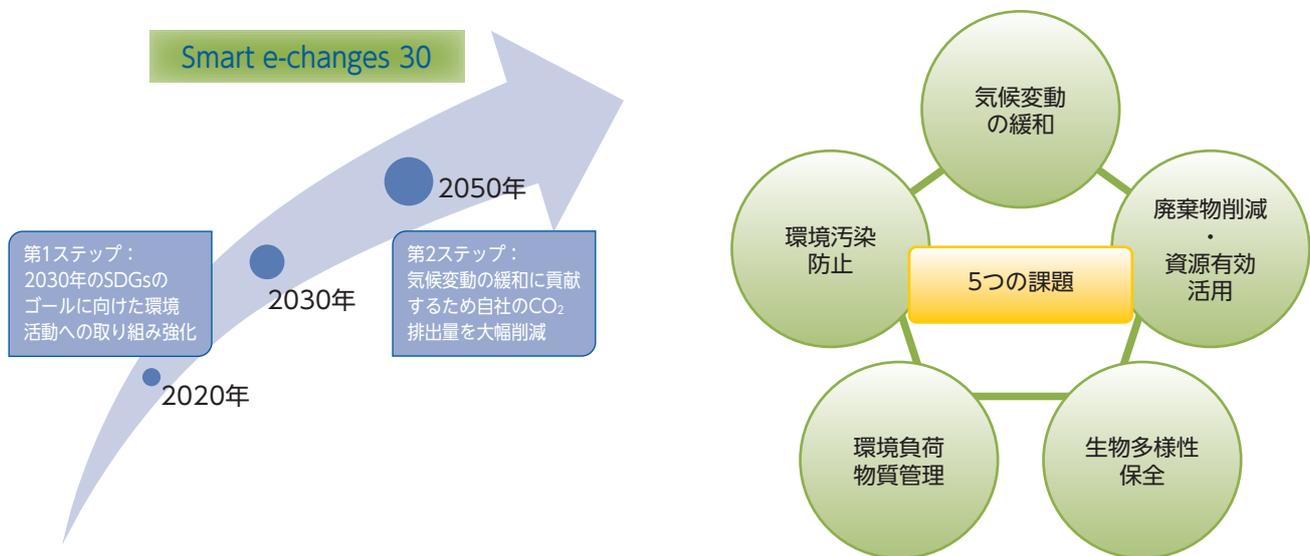
中長期環境行動計画 “Smart e-changes 30”

グローバルな環境課題を解決する一翼を担うべく、“Smart e-changes 30”を掲げESG経営を推進し行動します。

第1ステップは、2030年のSDGsのゴールに寄与するために、5つの取り組みを推進します。

なお、気候変動の緩和についてはパリ協定および国の目標を受けて、2030年までに国内のCO₂排出量を21%削減します。

第2ステップは、30年後の2050年に向け、気候変動の緩和のためエネルギーミックスを推進し、CO₂排出量を2013年度比80%削減を目指します。



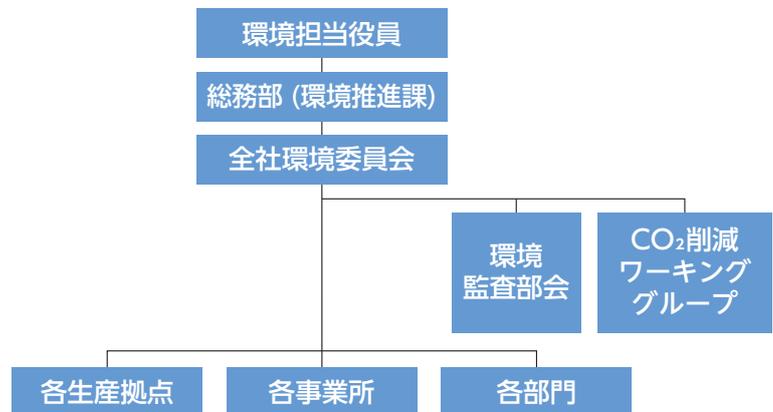
| 課 題 | 活動内容 |
|-----------------|--|
| 気候変動の緩和 | ・ CO ₂ 削減のための省エネルギー活動等の推進 |
| 廃棄物削減 資源有効活用 | ・ 廃棄物の減量化のために分別回収を徹底 ・ ゼロエミッション率100%を維持 ・ 水リサイクル推進 |
| 生物多様性保全 | ・ 地域に密着した生物多様性の保全活動の実施 |
| 環境負荷物質管理 | ・ 法規制および顧客要請への対応 ・ EHS*管理活動の継続 |
| 環境汚染防止 | ・ 環境リスク管理活動を実施 |

※EHS : Environmental Hazardous Substances (環境負荷物質)

環境保全推進体制

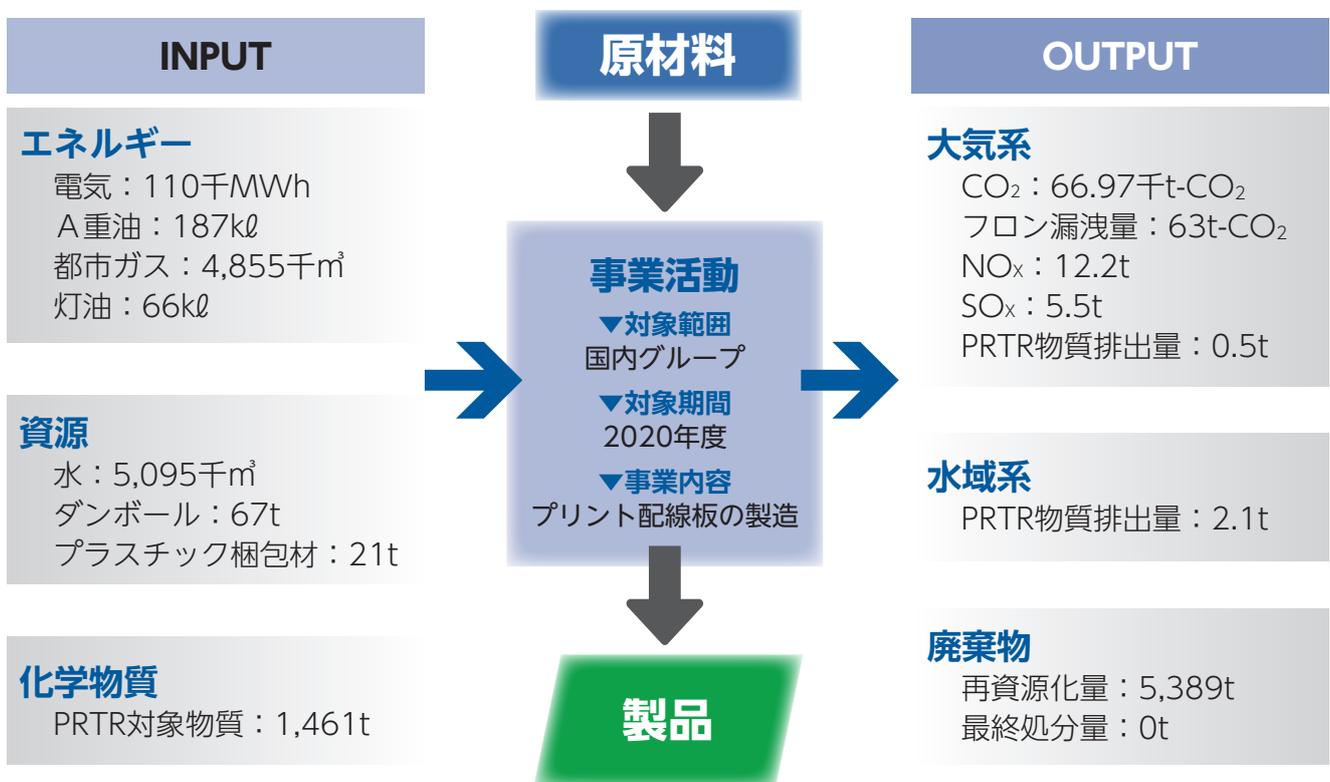
CMKグループの横断的環境管理組織として、全社環境委員会を設置しています。

専門的な活動を推進する組織として、環境負荷物質管理を担う環境監査部会、CO₂排出量削減を推進するワーキンググループを設け、より一層の活動強化をはかっています。



事業活動と環境との関わりあい

事業活動に必要な資源およびエネルギーの使用、それにともない排出される温室効果ガスや廃棄物の排出量を適切に把握することにより実効性のある環境活動につなげています。



気候変動の緩和

地球温暖化の原因であるCO₂の排出量削減に向けた省エネルギー活動を、製造、間接部門問わずCMKグループで推進しています。

2020年度は、高効率タイプのエアークンプレッサーへの更新、照明のLED化など20件の省エネ改善に取り組み、電気使用量で3,905千kWh、CO₂換算で1,909t-CO₂の削減見込みとなりました。

2020年度のCO₂排出量は、国内グループで66.97千t-CO₂（前年度比5.7%減少）、海外グループで102.57千t-CO₂（前年度比4.1%減少）でした。

2020年度省エネ事例

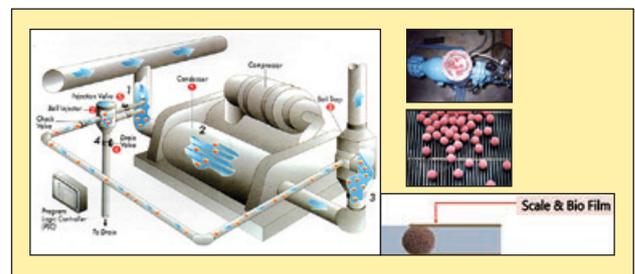
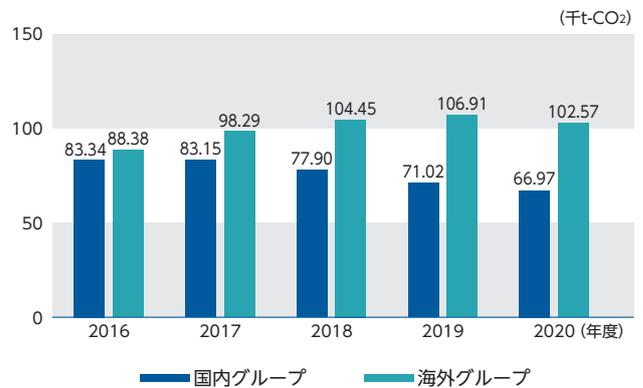
CMKタイでは工場で使用するチラー（冷却水循環装置）2台にボールクリーニングシステムを導入し効果をあげました。

この仕組みはゴム製ボールが熱交換器や配管内を循環することで、装置内を全自動でクリーニングし、熱効率が良くなりエネルギー消費を削減するシステムです。

これによりチラーの電気エネルギー消費量が約15%削減（理論値）となり、これはCMKタイの年間電気使用量の約1.6%に相当します。

今後も積極的にエネルギー削減に取り組み、CO₂排出抑制にも貢献していきます。

CO₂排出量の年度推移（国内・海外）



【イメージ図】

廃棄物削減・資源有効利用

ゼロエミッションへの取り組み

CMKグループでは、ゼロエミッションを「直接埋立て処分する廃棄物の量をゼロにすること（業者委託による中間処理の残渣の埋立て処分量は含まない）」と定義し、その達成を目指して取り組んでいます。

2020年度のゼロエミッション率は国内グループでは100%を維持、海外グループでは97.3%（前年度比1.2ポイント向上）でした。

ゼロエミッション率の推移



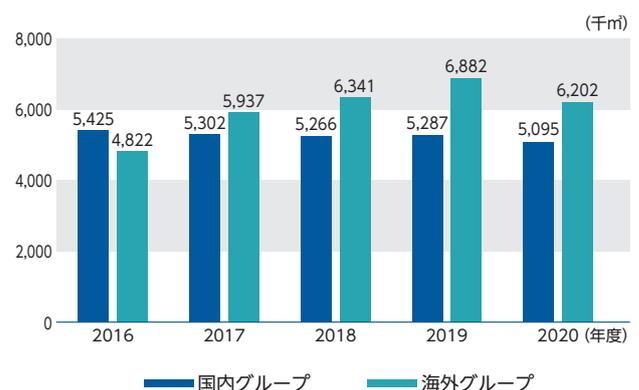
水資源の有効利用

水資源の有効利用、使用量削減への取り組みとして、水リサイクル装置の導入や、生産設備へは節水機能を搭載するなど積極的に推進しています。

海外工場の水リサイクル量 [2020年度]

CMK 無錫：327千m³
 旗利得電子：230千m³
 CMK タイ：243千m³

水使用量の年度推移



生物多様性保全

地域に根ざした生物多様性保全活動として、各事業所周辺、地域の行政・ボランティア団体などと連携した活動に取り組んでいます。

2020年度は、外来生物の駆除や在来生物の保護などに取り組みました。

環境負荷物質管理

CMKグループでは、材料等に含有される化学物質または製造時に使用される化学物質のうち、国内外の法規制、顧客要求、業界基準等に基づき、地球環境や人体に著しい影響を及ぼすと判断した化学物質をEHS*（環境負荷物質）と定義し管理しています。

EHS管理の基本的事項として右の5項目を掲げ、使用禁止物質が当社製品に混入、汚染され、出荷されないよう活動しています。

- ① 納入される材料やその仕入先を承認し登録する
- ② 登録された材料を選択する
- ③ 納入された材料が、登録された材料であることを確認する
- ④ 登録された材料や当社最終製品が、自主的な科学的分析で使用禁止物質が非含有であることを証明する
- ⑤ ①から④に掲げる項目が確実に運用しているかを確認する

※EHS : Environmental Hazardous Substances

グリーン調達活動

環境にやさしい製品の開発、環境に配慮した生産活動を推進しています。その一環として、環境管理体制が整備されているお取引先様から環境負荷の少ない材料を優先的に購入するグリーン調達を実施しています。

評価は、アーティクルマネジメント推進協議会 (JAMP) が発行したチェックシートをもとに環境負荷物質管理の仕組みやルールおよび運用の記録などを確認し、2020年度は、国内・海外合わせて153社のお取引先様について実施しました。

EU RoHS指令 規制物質への対応

新規に含有禁止物質に追加された4種のフタル酸エステル類は接触する他の製品や材料に移行する性質（移行性）があるため、「フタル酸エステル管理ガイドライン」を制定し、お客様に納入する製品に含有しない管理体制を構築しています。

EHS管理認定制度

お取引先様へは、EHS管理活動の確認と維持向上を目的としたEHS管理監査を実施しています。

監査の結果、総合的な評価が高いお取引先様については「CMKグリーンパートナー」として認定しています。

リモートによるEHS管理監査の実施

コロナ禍の現状を鑑み、お取引先様へはリモートによるEHS管理監査を実施しました。2020年度は5社のお取引先様に対してリモート監査を実施しEHS管理の仕組みやルールおよび運用の記録などを確認しました。

環境配慮型プリント配線板「E-spec」

自社の環境基準を満たす製品を「E-spec」として製品の供給を通じ環境負荷低減にも取り組んでいます。

*E-spec基準に適合した製品には、ご要望に応じてE-specマークを表示しています。



環境汚染防止

CMKグループは、環境汚染事故の予防活動の一環から環境リスクアセスメントを取り入れ環境リスクの未然防止に努めています。また、環境マネジメントシステムのもと、法令等の制改定情報の監視を日頃より継続し、遵守事項を明確にし事業活動を行っています。同時に、遵守状況を定期的に確認し、万一不備などあれば改善・是正し、法令遵守を第一と考え活動しています。

公正な取引

「CMKグループ購買方針」に従い、お取引先様と相互の企業活動の持続的発展を目指します。

公平・公正な取引の実施

お取引先様の選定は、公平・公正な取引の実施を目的に、「お取引先様選定方針」に基づき、以下項目の観点から総合的評価により実施しています。

- (1) 法令および社会規範の遵守
- (2) 人権・環境等のCSRへの取り組み
- (3) 経営の健全性
- (4) 品質・価格・納期等の適正水準の維持および向上
- (5) 災害発生時等不測の事態における供給継続能力および協力度

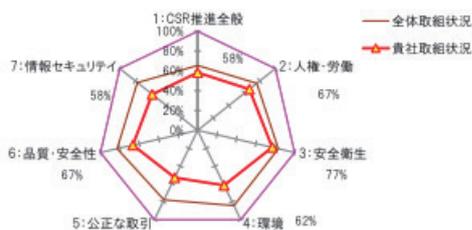
お取引先様へのCSR調査実施

CSR推進の見地から、お取引先様へ定期的にCSR取り組み状況に関する調査を実施しています。

2020年度は、お取引先様59社に対して調査を依頼し、その結果のフィードバックを行っています。本調査は当社のCSRに対する考え方をお取引先様に理解いただく機会でもあり、今後も継続して実施していきます。

CSR調査フィードバック例

| 項目 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 合計 |
|--------|------|-----|------|------|------|-----|-----|------|
| 満点 | 24 | 12 | 13 | 13 | 17 | 9 | 12 | 100 |
| 貴社得点 | 14 | 8 | 10 | 8 | 9 | 6 | 7 | 62 |
| 平均得点 | 15.7 | 9.1 | 10.8 | 11.0 | 13.2 | 7.5 | 9.3 | 76.6 |
| 貴社取組状況 | 58% | 67% | 77% | 62% | 53% | 67% | 58% | 62% |



購買部門による監査の取り組み

CMKグループの購買に関わるすべての部門で業務が適正に行われているかを確認するため、購買部門による監査を定期的を実施しています。

コロナ禍での監査となった2020年度は、各拠点での現地監査に代え、お取引先様との適切な関係等、公正な取引に係る重要な項目などを中心とした「セルフチェックシート」による監査を実施しています。

下請法遵守への取り組み

当社は親事業者として下請取引の公正化、下請事業者の利益保護を目的とした下請法遵守のため、牽制機能が有効となる社内システムを構築しています。

さらに下請法に関する教育としてe-ラーニングや外部講習等の職種別教育を計画的・継続的に実施し、従業員一人ひとりへコンプライアンス意識の浸透をはかっています。

コロナ禍のコミュニケーション

新型コロナウイルス感染症の拡大は、CMKグループの購買活動にも影響を及ぼしました。生活様式やワークスタイルが変化し、Face to Faceでのコミュニケーションが難しくなる中、お取引先様とは直接の面談を極力控え、web会議ツールを活用したりリモートミーティングを行うことで積極的にコミュニケーションをはかっています。

人権・労働

「基本理念」に基づき、個人の多様な価値観を認めるなど人権を尊重し、従業員一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、やりがいをもって職務に取り組む環境を醸成するとともに精神的・物質的幸福を追求します。

人材育成（ダイバーシティ&インクルージョン）

性別や国籍、年齢、宗教、障がいの有無にかかわらず多様な人材の採用や従業員の能力開発を積極的に推進し、一人ひとりがいきいきと活躍できる職場づくりを目指すとともに、多様な個性や価値観を組織の力に変え、行動力と豊かな創造性を有した人材の育成を目指しています。

人材育成のための教育プログラム

当社では、行動力と豊かな創造性を有した人材の育成を目指し、多様な教育研修プログラムを策定しています。

階層別、職種別、グローバル人材育成、コンプライアンス教育など、必要不可欠なテーマをベースに外部環境の変化やリスク状況を勘案、有効性を踏まえ毎年計画内容を見直し、人材育成のツールとして継続的に整備・運用している状況です。

CMKグループ教育プログラム（イメージ抜粋）

| 分類 | 教育内容 |
|------------|--|
| グローバル教育 | 海外赴任者赴任前研修 語学力向上制度(語学国内留学制度) |
| 階層別教育 | 新入社員研修～各役職者就任時の教育 人事考課者訓練 |
| 部門別教育 | 営業部門を対象としたビジネス交渉力研修 製造部門を対象とした安全、品質・生産性向上に関する研修 |
| 共通教育 | 業務効率化、女性活躍推進、ライフプランに関する研修、セミナーなど |
| コンプライアンス教育 | 4Mはじめ各役職者別の研修 |
| 業務留得・自己啓発 | 各職場における教育および教育支援並びに公的資格推進 通信教育・語学学習への支援並びにTOEIC |
| 海外グループ関連支援 | 海外グループ関連会社に対する教育支援 部門ごとの対応 |
| | 各種講習会・セミナーなど |

多様な人材の活躍推進

女性活躍推進

2020年からは女性従業員とその上司を対象に女性活躍推進研修を実施しています。

従業員の活躍推進を目的として、キャリアプランに対する気づきの場の提供や性別に関係なくレベルの高い仕事を目指す意欲醸成の機会として今後さらに推進していく予定です。

外国人活躍推進

外国人技能実習制度に基づき、現在、タイから38名の技能実習生が参加しています。その中で、2018年に来日した一期生21名のうち期間継続を希望する18名が、この度プリント配線板製造技能検定（3級）に合格し、実習継続に必要な資格を取得しています。今後も各国の経済発展を担う「人づくり」に寄与するとともに、国籍などにとらわれない人材活躍の推進に努めていきます。

タイ実習生のQC活動（職場改善活動）



プリント配線板製造技能検定（3級）に合格した喜びの実習生

障がい者活躍推進

年齢や障がいの有無にとらわれず、多様な人材が持てる能力を十分に発揮し、いきいきと働ける職場環境を提供していきます。

また、65歳まで定年延長したことで、働く意欲のある従業員が活躍できる機会を拡充しています。

障がい者雇用率の推移



ワーク・ライフバランス

従業員の働きやすさの向上とワーク・ライフバランス（仕事と生活の調和）を目的に各種制度を整備・推進しています。

仕事と生活の調和

従業員の精神的・物質的幸福の追求は職業能力開発、人材育成にもつながる重要なものと捉えています。

当社では、従業員一人ひとりの価値意識や生活スタイル等を踏まえ、多様な選択肢を可能とする仕事と生活の調和実現を目指しています。

そして、その実現が企業のパーパス（存在意義）を支える原動力と考えており、さらに整備を進めていく予定です。従業員のライフスタイルに応じて、仕事と個人の生活を調和させながら活躍できるよう各種制度の充実に取り組んでいます。2020年度からは育児休業の一部を有給とし、看護制度の対象年齢を中学校就学の終期までに拡充するなど育児・介護に関する制度の整備を進めています。

働きがいのある職場

2020年4月に導入した「公正な人事制度の実現」への改革にともない、会社目標と個人目標の明確化および個人面談の見直しを行っています。

中期経営計画の策定および達成に向けて5つの革新領域における7つのプロジェクトを立ち上げました。本活動を原動力として5年以内に売上高1,000億円の達成と、コスト30%削減を目指します。

「できない」ではなく、「どうしたらできるか」という前向きな姿勢で、従業員が持つ能力を存分に発揮できるよう積極的なプロジェクト活動を展開しています。

在宅勤務制度

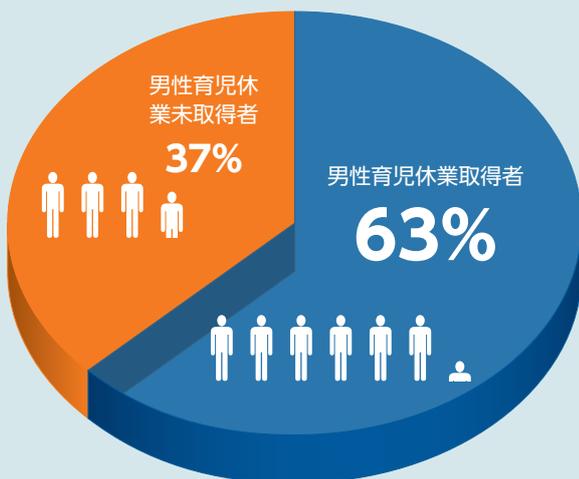
2020年度に本格導入した在宅勤務制度は、管理・間接部門を中心に実効性をともなった形で実施率も伸びています。

web会議などにより、コロナ禍以前と比較してもコミュニケーションが取りやすい環境となり、社内に定着しつつあります。

トピックス情報

2019年度から積極的に推進している男性の育児休業取得について、2020年度の取得率が6割を超えるなど、社内への浸透が加速している状況です。

男性育児休業取得率



仕事をしていても育児のことが気になり、育児休業を取得しました。休業期間中には妻のサポートをすることができ、また、育児メインの生活をすることができました。

妻にも喜んでもらえました。

(M.Sさん 7日間取得)



双子だったので、育児休業を取得することにより妻の負担を減らすことができました。双子に離乳食を食べさせる時には妻の大変さを痛感しました。日々の成長を肌で感じることができ、これからも楽しみです。

(K.Sさん 7日間取得)



育児・家事を分担することで妻を支えることができました。第1子がまだ2歳ですが、祖父母は離れているため頼ることができなかったため、とてもありがたいかったです。

妻は「育児休業をもっと取得して欲しい」と言っていました。

(A.Mさん 20日間取得)

VOICE

男性育児休業取得者の声

安全衛生

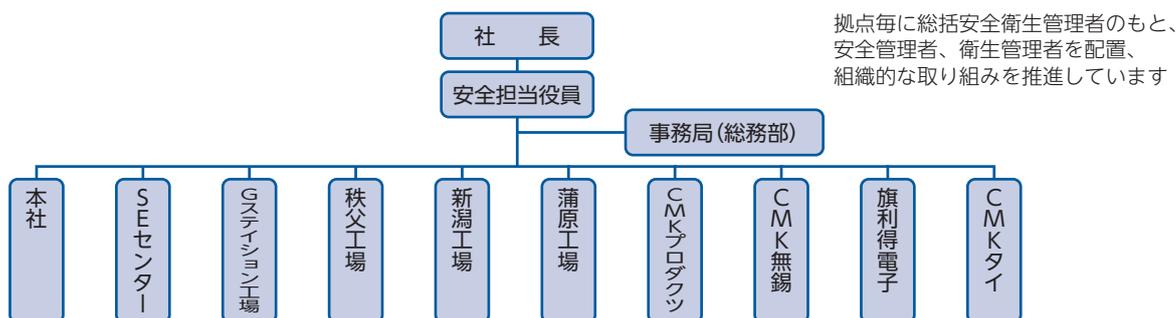
従業員の安全と健康の確保は、事業の「発展と持続」を支える基盤です。

従業員一人ひとりの安全衛生に対する意識の高揚をはかり、職場における安全第一の思想を基本に、全員参加による危険のない安心して働ける快適な職場の形成を目指します。

安全衛生管理体制

CMKグループでは、社是、基本理念を体現するために「安全衛生基本方針」を通じ、従業員が安心して働くことができる職場環境づくりを進めています。活動の一環として、会社の安全を統括する担当役員を選任し、グループ内での積極的な安全衛生推進活動を実施しています。その他、全社安全衛生委員会を半期毎に開催し、グループ全体での情報共有および一体となった労災防止活動を推進しています。

CMKグループ安全衛生管理体制図

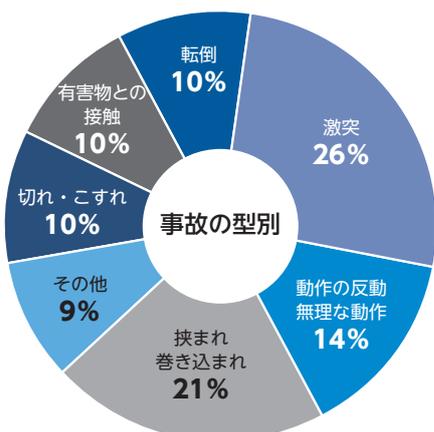


労働災害発生防止の取り組み（原因分析と対策強化）

職場安全環境の向上のため、類似災害防止の観点から過去に発生した事故事例情報の分析結果を共有、安全衛生委員会を中心にリスクアセスメントを盛り込んだ安全衛生パトロールに加え、総務部による本部監査を通じ、対策状況含めた現状確認など（コロナ禍につきweb会議併用等）取り組みを行っています。こうした中、2020年度は残念ながら結果にはつながらず設定目標をクリアすることができませんでした。個々の原因分析を深めつつ、何より基本となる従業員への安全啓発活動として、多言語による動画配信やポスター掲示等、さらなるCMKグループの労災防止強化に向け、取り組んでまいります。



多言語にて労災の危険性を動画配信
(写真：安全担当 網本委員長)



2020年度 労災発生状況の内訳

A safety poster for the "Hiyari Hat" activity. The top section is titled "徹底" (Thorough) and lists three items: ① 稼働部に手足を入れない (Do not put hands/feet in the operating part), ② 手順の順守 (Follow the procedure), and ③ 保護具の着用 (Wear protective gear). The main section is titled "徹底3項目を、今一度、徹底しよう!" (Let's thoroughly review the 3 items again!). It lists the three items with icons: 1. 稼働部に手足を入れない (Do not put hands/feet in the operating part), 2. 手順の順守 (Follow the procedure), and 3. 保護具の着用 (Wear protective gear). Below this, it says "全員参加 ヒヤリハット活動推進中" (All employees participate in Hiyari Hat activity promotion). A central graphic shows a triangle with "重大事故 1件" (1 major accident), "軽症事故 29件" (29 minor accidents), and "損害のない事故 300件 ヒヤリハット" (300 accidents with no damage, Hiyari Hat). Text around the triangle says: "危険の芽を摘もう!" (Pick off the buds of danger!), "打ち上げられた情報は改善を進めよう!" (Let's improve based on the information that was raised!), "みんなの力で安全職場を築き上げよう!" (Let's build a safe workplace with everyone's power!), "ゼロ災害へ全員参加" (All employees participate in zero accidents), and "全員参加で危険を無くそう!" (Let's eliminate danger with everyone's participation). At the bottom, it says "現場から体験を打ち上げよう!" (Let's raise experiences from the site!). The logo "CMK 全社安全衛生委員会" (CMK Group-wide Safety and Health Committee) is at the bottom right.

その他健康・安全への取り組み

すべての従業員が心身の健康を維持できるよう、さまざまな取り組みを展開しています。

- ・ストレスチェックおよびメンタルヘルスクエアの実施
- ・交通安全ニュースを毎月掲示し、従業員の安全意識を高める
- ・食堂厨房業者との意見交換を定例化し、季節を感じる食材を利用したメニューを提供
- ・インフルエンザ予防接種への積極支援（希望従業員への全額補助）

新型コロナウイルスへの取り組み

新型コロナウイルス感染拡大に対し、従業員やその家族をはじめ関係者の方々の安全を最優先に考え、感染予防および感染拡大防止に努めています。日々変化する状況に応じ適時適切な対応を心掛け感染リスク低減に最大限配慮しつつ、供給責任を果たすべく製品の継続的な提供に尽力してまいります。

新型コロナウイルス感染拡大に対する社内対応

- ・政府機関から推奨される出勤率を目安に在宅勤務を併用した出勤対応
- ・検温・行動履歴表の作成・管理
- ・出張・渡航に関する厳格な規制の適用
- ・各職場における消毒とソーシャルディスタンスの徹底
- ・新しい生活様式の推奨



web会議の様子



社員食堂のソーシャルディスタンス



構内立ち入り時の検温チェック

火災リスク・自然災害リスクへの取り組み

気候変動による自然災害は目に見えて増加し、予想以上に被害をもたらしています。当社では火災リスクや自然災害リスクの低減をはかるため、各拠点のリスク評価や対策状況などを把握するとともに、保全活動を徹底し安全の確保をはかる活動を実施しています。

品質・安全性

お客様によりご満足いただける魅力ある製品・サービスを提供できるよう、品質・安全性のさらなる向上に取り組んでいます。

製品の品質保証に向けた取り組み

「心のこもった物づくり」を合言葉に、「品質第一」を掲げ、顧客満足度ナンバー1企業を目指し、品質の強化ならびに信頼性の向上に取り組んでいます。

CMKグループ品質方針

- ・将来にわたり、事業を継続し、社会とお客様に必要とされ続ける会社になる為に、社会・法令・お客様の要求事項を満たし、時代の変化を先取りしつつ、企業品質の向上に努めます。
- ・「良い条件・良い設備・正しい作業の磨き上げ」を、日々の改善活動のテーマとして、継続的に品質向上を進めます。
- ・お客様に満足され、選ばれ続ける会社になる為に、品質マネジメントシステムを継続的に改善し、品質保証体制の強化を進めます。

品質/環境マネジメントシステム

CMKグループ全事業所では、世界各国に通用する品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証を取得しています。

これらの国際規格をベースにした、CMKグループを統一するマネジメントシステムを運用し、品質・環境システムにおけるガバナンスを強化するとともに、自動車向け品質規格であるIATF16949に準拠したグループ統一規格を構築中です。

新潟・蒲原工場、営業、開発、技術などの本社機能
ISO9001/ISO14001認証



旗利得電子（東莞）有限公司
IATF16949/ISO14001認証



希門凱電子（無錫）有限公司
IATF16949/ISO14001認証

シイエムケイ・プロダクツ(株)
ISO9001/ISO14001認証



CMK CORPORATION
(THAILAND) CO.,LTD.
IATF16949/ISO14001認証

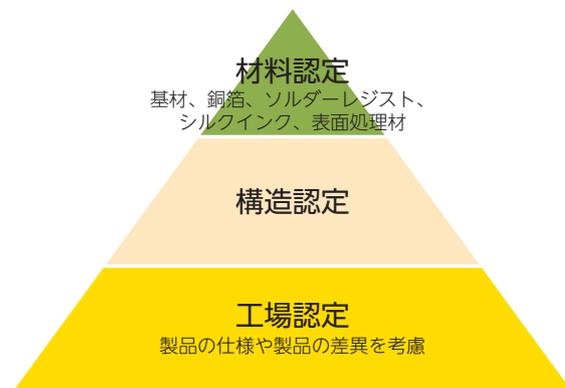
製品承認システムと不具合事象のフィードバック

当社のお客様に安心して使用いただくため、三段階の認定システム（材料認定→構造認定→工場認定）を運用しています。

製品の仕様ごとに市場での使われ方や品質保証期間を考慮し、より高い水準の信頼性評価を実施することでお客様に安全かつ安心な製品をお届けしています。

不具合事象の解析では各種分析装置を社内にとり入れ、正確かつスピーディーに原因の究明と対策を行い、そのノウハウをグループで共有することにより同一品質で生産できるよう品質強化に取り組んでいます。

また、信頼性試験・解析ラボは、お客様の外部試験所としての認定もいただいています。



信頼性試験装置



X線解析装置



ロックイン赤外線発熱解析装置

変更管理の徹底

製品および製造工程における変更は、製品品質への影響が考えられます。4M（材料、人、方法、装置）の変更については、グループ統一のルールで運用し、お客様への報告に遅延が生じないように、十分な管理体制を構築しています。

安全規格への準拠

米国の安全規格であるULにおいても、認定された材料、プロセスで製品を製造し、提供しています。

顧客ニーズ対応

お客様のニーズを把握するため、お客様満足度に関するアンケート（以下CS調査）の実施や外部展示会への積極的な出展により、お客様からのご意見やご要望など課題を把握する機会を設けています。継続的な改善活動を通じ、お客様に満足いただける企業を目指しています。

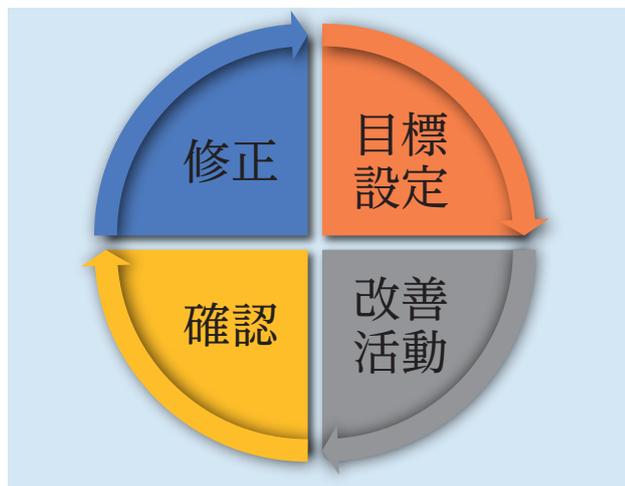
顧客ニーズ収集活動

CS調査の実施

CS調査は「製品」をはじめ「営業」「品質」「納期」「技術」といったカテゴリごとの調査を定期的に行っています。

経営目標との連動

CS調査の分析結果により得られた課題を経営目標の中に含めることで改善活動、確認、修正といったプロセスの循環が経営目標の達成と顧客満足度の向上に自然とつながる仕組みとなっており、連動することで社員一丸となりお客様満足度向上を目指しています。



CS調査で改善活動の有効性を評価

CS調査で課題となった事項に対しては、その取り組み活動が有効であったか否かを次回のCS調査で分析しています。お客様のニーズを継続的に収集・評価分析・改善活動をサイクル化し、お客様満足度向上につなげていきたいと考えています。

2020年度のトピックス

国内外の営業社員を対象に業務内容に対する理解を深め、お客様のご要望に合ったVE/VA提案や市場ニーズを把握するための社内勉強会を実施しました。

展示会への出展

コロナ禍においても顧客ニーズの収集が重要と考え、名古屋ネプコンジャパン（2020年10月）、東京ネプコンジャパン（2021年1月）に万全な感染予防を行い出展しました。

さらに並行してオンライン展示会を開催し多数の方にご来場いただきました。



名古屋ネプコン2020



東京ネプコン2021



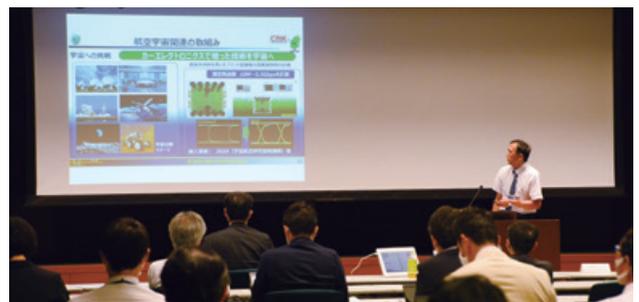
オンライン展示会対応（パソコン画面）

有人と圧ローバーチームジャパンに参加

JAXA（宇宙航空研究開発機構）・トヨタ自動車㈱・三菱重工業㈱主催の有人と圧ローバーチームジャパンの勉強会に出席し、当社からは月面探査車に搭載されるプリント配線板の小型化構造や高信頼性技術などについて提案いたしました。講演会では宇宙環境下での信頼性評価技術など、多数の方と意見交換をすることができました。



月面探査車
(ルナクルーザー)



当社による技術発表の様子

社会貢献

企業市民として地域社会との調和共存をはかり、信頼関係を築くことが重要と考え社会貢献活動を推進しています。

CMKタイによる公共施設への寄贈

タイでは寄贈を行う習慣が根付いており、CMKタイでも継続的な取り組みとして寄贈活動を行っています。学校や児童育成センターにコピー用紙やプラスチック板、パソコンを、市町村・寺院には薬品の空タンクや木製パレット等（ゴミ箱、テーブル、椅子として使用）を寄贈しました。これらの活動は社会貢献という枠にとらわれず、寄贈品が学習資材として利用されるなど教育支援にもつながっています。



清掃・美化活動

各事業所では、定期的に周辺地域のクリーン活動を行うとともに、自治体主催による清掃活動などにも参加し、地域に根差した活動を継続的に実施しています。

旗利得電子（東莞）有限公司
新昇電子貿易（深圳）有限公司
広東省東莞市謝崗鎮
銀瓶山清掃登山を実施
(2020年11月21日実施)



S Eセンター環境
美化活動の実施（定期実施）



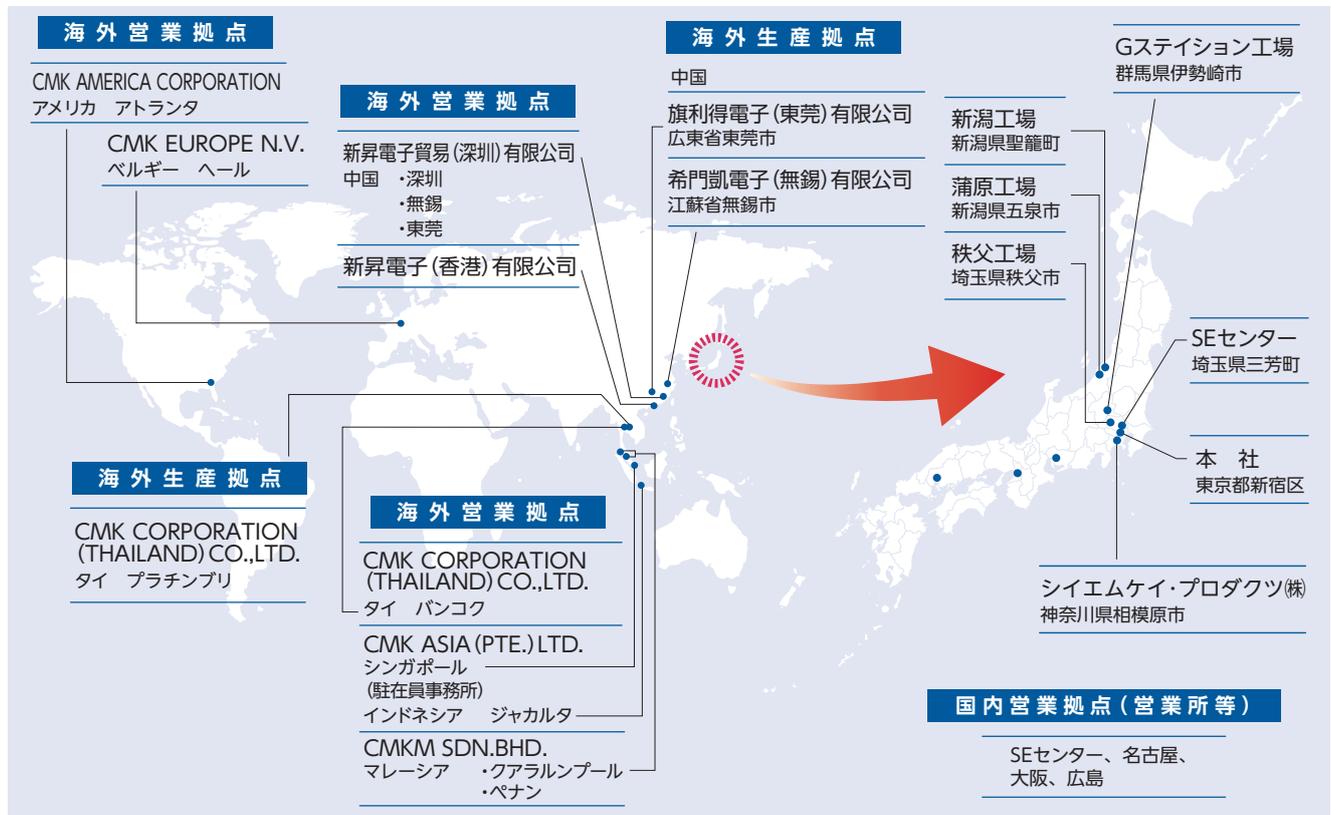
彩の国ロードサポートへの登録

S Eセンター（埼玉県三芳町）では、長年にわたり事業所の前をはしる国道254号線の清掃活動を実施しておりましたが、2020年5月に「彩の国ロードサポート」に登録されました。「彩の国ロードサポート」とは県管理道路（歩道部分）において、ボランティアで清掃美化活動を行う住民団体・企業等を募集し、行政と協力して、快適で美しい道路環境づくりを推進するとともに、道路愛護意識の向上をはかる取り組みです。

今後も地域に根差し社会に必要とされる企業となるよう、積極的に地域貢献活動を行ってまいります。

CMKグループ事業拠点

主な事業拠点



主な生産拠点



新潟工場



蒲原工場



シイエムケイ・プロダクツ(株)



希門凱電子(無錫)有限公司



旗利得電子(東莞)有限公司



CMK CORPORATION (THAILAND) CO.,LTD.

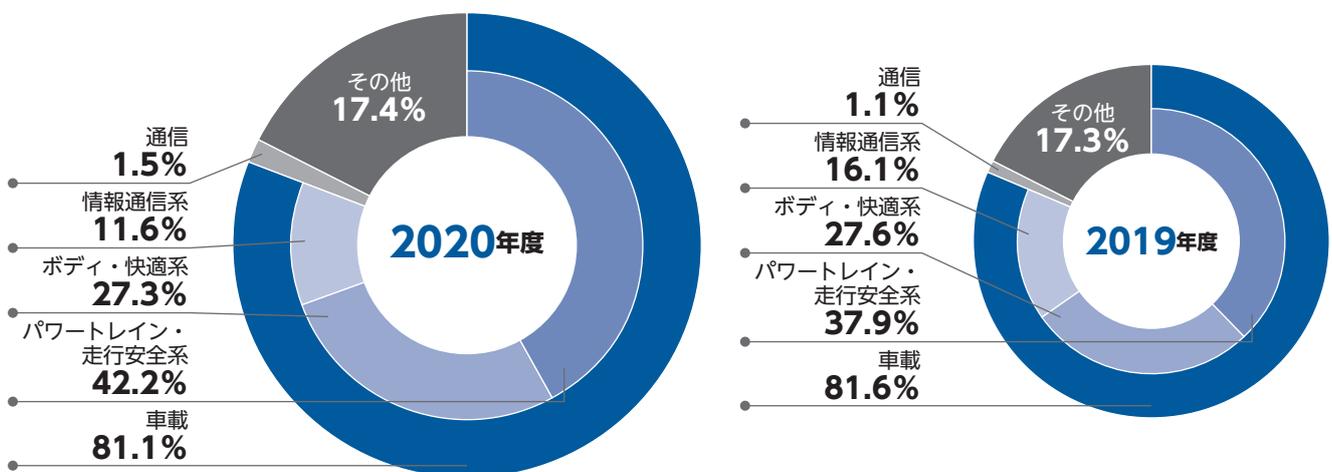
業績・財務ハイライト

2020年度は、当社グループ主力の車載分野においては中国で自動車販売がいち早く回復し、日本でも回復基調となりましたが、世界全体では低調に推移しました。

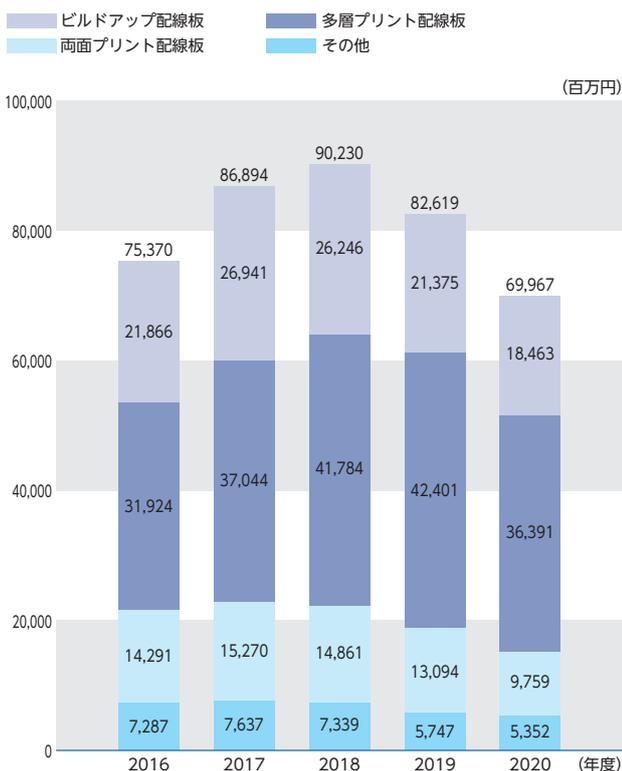
当社グループにおいても、車載向けの販売が減少し、連結売上高は699億67百万円（前期比15.3%の減収）となりました。

利益面につきましては、固定費削減等を推進したものの、売上高の減少の影響などにより、営業損失は16億76百万円（前期は16億1百万円の営業利益）となりました。また、営業利益の減少にともない、経常損失は15億11百万円（前期は7億92百万円の経常利益）、親会社株主に帰属する当期純損失は18億68百万円（前期は11億28百万円の親会社株主に帰属する当期純損失）となりました。

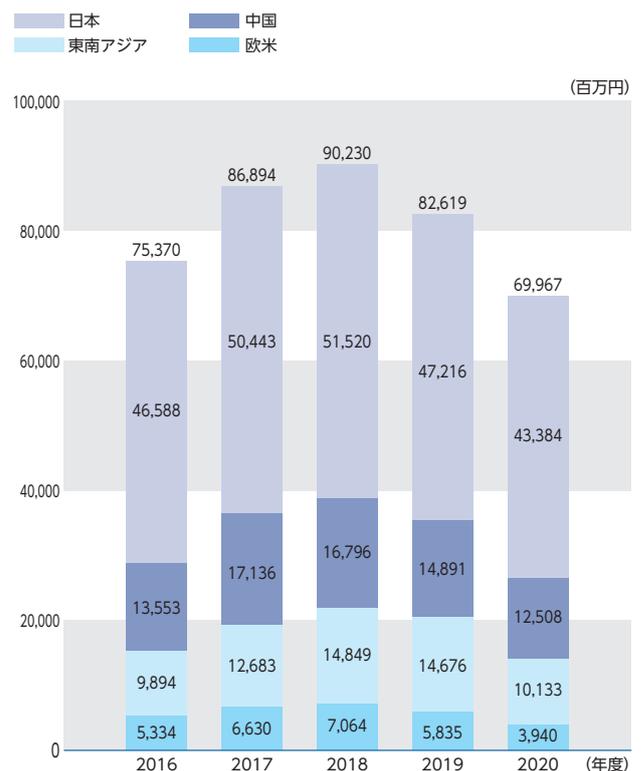
用途別売上高



品目別売上高情報



所在地別売上高情報

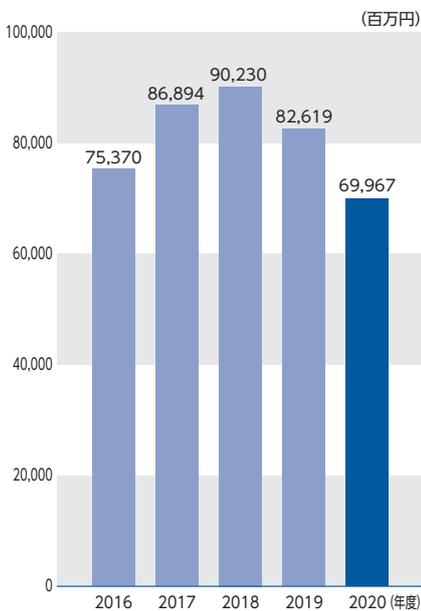


業績ハイライト

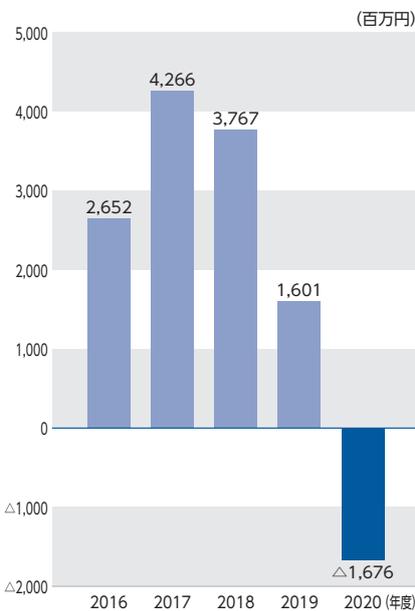
| 連結会計年度 | | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
|------------------|-------|--------|--------|--------|---------|---------|
| 売上高 | (百万円) | 75,370 | 86,894 | 90,230 | 82,619 | 69,967 |
| 営業利益または営業損失(△) | (百万円) | 2,652 | 4,266 | 3,767 | 1,601 | △ 1,676 |
| 経常利益または経常損失(△) | (百万円) | 2,628 | 3,917 | 3,770 | 792 | △ 1,511 |
| 当期純利益または当期純損失(△) | (百万円) | 2,153 | 3,638 | 2,015 | △ 1,128 | △ 1,868 |
| 純資産 | (百万円) | 51,549 | 55,892 | 55,849 | 54,932 | 51,519 |
| 自己資本比率 | (%) | 51.5 | 55.5 | 49.9 | 53.6 | 49.8 |
| 従業員数 | (名) | 4,512 | 4,601 | 4,990 | 4,851 | 4,960 |

※「親会社株主に帰属する当期純利益または親会社株主に帰属する当期純損失(△)」を「当期純利益または当期純損失(△)」として記載

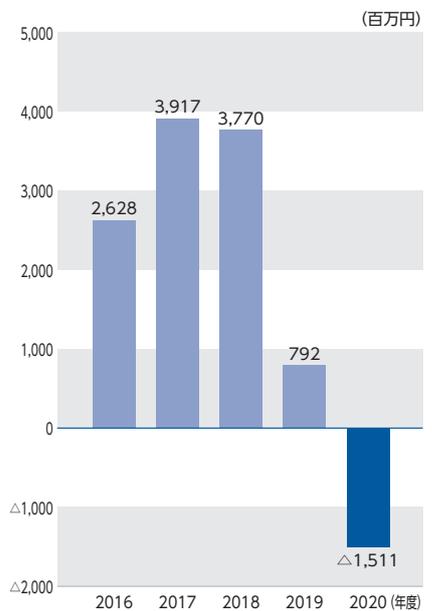
売上高



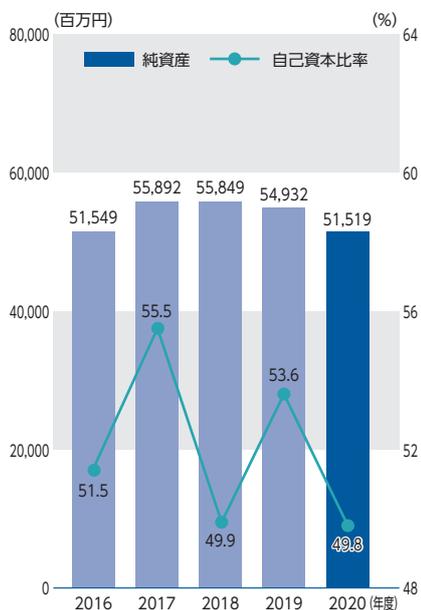
営業利益または営業損失(△)



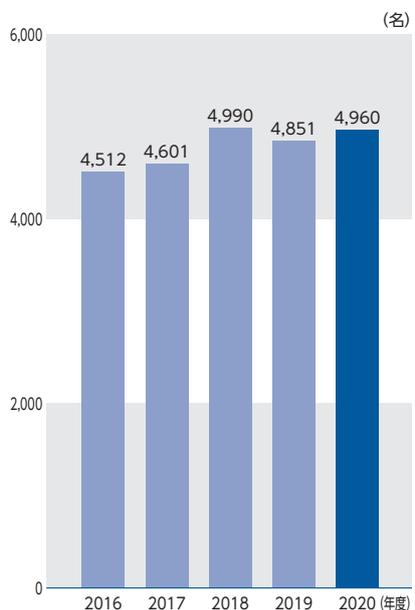
経常利益または経常損失(△)



純資産・自己資本比率



従業員数



会社概要

商号 日本シイエムケイ株式会社

設立 1961年2月

代表取締役社長 大澤 功

資本金 223億620万円

上場 東京証券取引所市場第一部

役員 (2021年8月1日現在)

| 取締役および監査役 | | |
|-----------|----|----|
| 代表取締役社長 | 大澤 | 功 |
| 取締役副社長 | 黒沢 | 明 |
| 取締役執行役員 | 花岡 | 仁志 |
| 取締役執行役員 | 手戸 | 邦彦 |
| 取締役執行役員 | 山口 | 喜久 |
| 取締役執行役員 | 石坂 | 嘉章 |
| 社外取締役 | 右京 | 強 |
| 社外取締役 | 佐藤 | りか |
| 社外取締役 | 海藤 | 満 |
| 常勤監査役 | 小池 | 正 |
| 常勤監査役 | 岡部 | 明広 |
| 社外監査役 | 山梨 | 雄司 |
| 社外監査役 | 芦辺 | 真幸 |

本社所在地 東京都新宿区西新宿六丁目5番1号

事業内容 民生用、産業用各種プリント配線板および電子デバイスの開発・製造・販売

従業員数 1,327名 (CMKグループ4,960名)

平均年齢 45.52歳

| 執行役員 | | |
|------|----|----|
| 執行役員 | 石橋 | 純一 |
| 執行役員 | 泉澤 | 隆 |
| 執行役員 | 岡安 | 孝 |
| 執行役員 | 川口 | 和宏 |
| 執行役員 | 河島 | 正紀 |
| 執行役員 | 栗山 | 昌也 |
| 執行役員 | 高橋 | 聡 |
| 執行役員 | 高橋 | 泰彦 |
| 執行役員 | 萩原 | 正芳 |
| 執行役員 | 藤野 | 敏和 |
| 執行役員 | 松尾 | 直樹 |

沿革

1959年 当社創業者中山登がネームプレート製造を個人創業

1961年 個人会社を法人化し中央銘板工業(株)(東京都杉並区)を設立

1963年 プリント配線板の生産を開始

1967年 埼玉県三芳町に埼玉工場(現SEセンター)を開設

1970年 プリント配線板生産を専門化

1974年 群馬県伊勢崎市に群馬工場(現Gステーション工場)を開設

1980年 埼玉県秩父市に中銘エンジニアリング(株)(シイエムケイメカニクス(株)に商号変更)を設立
シンガポールにCMK SINGAPORE (PTE.) LTD. (現CMK ASIA (PTE.) LTD.) を設立

1984年 日本シイエムケイ(株)に商号変更し、本社を埼玉県三芳町へ移転

1985年 東京証券取引所市場第二部に上場

1987年 ベルギーにCMK EUROPE N.V. を設立

1989年 東京証券取引所市場第一部に指定替え

1990年 新潟県聖籠町に新潟サテライト工場(現 新潟工場)を開設
シイエムケイ蒲原電子(株)(新潟県五泉市)に出資

1995年 本社を東京都新宿区へ移転

1998年 株山梨三光(山梨県韮崎市)に出資

2000年 中国に旗利得電子(東莞)有限公司を設立

2001年 中国に希門凱電子(無錫)有限公司を設立
香港に新昇電子(香港)有限公司を設立

2006年 タイにCMK CORPORATION (THAILAND) CO., LTD. を設立

2007年 国内子会社3社を合併し、シイエムケイ・プロダクツ(株)に商号変更
アメリカにCMK AMERICA CORPORATIONを設立

2012年 中国に新昇電子貿易(深圳)有限公司を設立

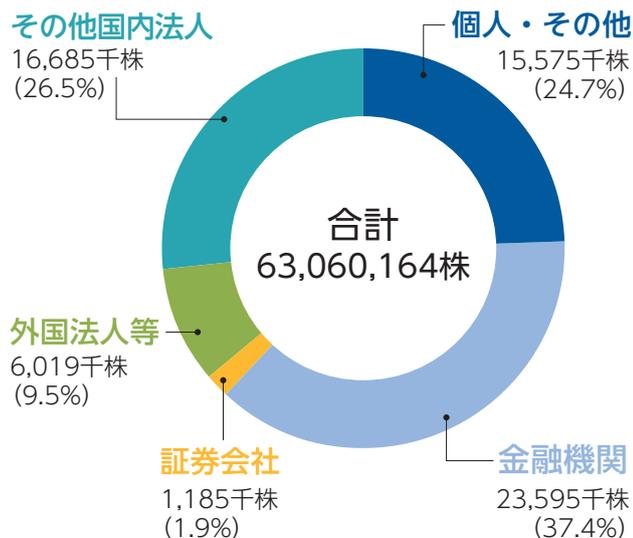
2014年 日本シイエムケイマルチ(株)、シイエムケイ蒲原電子(株)、株山梨三光、シイエムケイメカニクス(株)を吸収合併

2020年 シイエムケイファイナンス(株)を吸収合併
マレーシアにCMKM SDN.BHD. を設立

株式の状況 (2021年3月現在)

| | |
|----------|--------------|
| 発行可能株式総数 | 227,922,000株 |
| 発行済株式総数 | 63,060,164株 |
| 株主数 | 6,703名 |
| 単元株式数 | 100株 |

所有者別 株式分布状況



大株主 (上位10位)

| 株主名 | 持株数 (千株) | 持株比率 (%) |
|---|----------|----------|
| 株式会社キョウデンエリアネット | 5,310 | 8.9 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口) | 4,309 | 7.2 |
| 中山 高広 | 2,975 | 5.0 |
| 株式会社みずほ銀行 | 2,576 | 4.3 |
| 一般財団法人 電子回路基板技術振興財団 | 2,500 | 4.2 |
| 株式会社日本カストディ銀行 (信託口9) | 2,295 | 3.8 |
| 第一生命保険株式会社 | 1,895 | 3.2 |
| 中山 明治 | 1,891 | 3.1 |
| 橋本 浩 | 1,890 | 3.1 |
| みずほ信託銀行株式会社退職給付信託 さらばし銀行口再信託受託者 株式会社日本カストディ銀行 | 1,745 | 2.9 |

(注) 1. 当社は、自己株式3,864,583株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。
2. 持株比率については、自己株式を控除して算出しております。

編集方針

CMK Report について

当社では1999年に「環境報告書」を発行開始、その後2007年に「CSR報告書」へ発展、以降2017年まで毎年非財務情報分野の活動を開示・継続発行してきました。さらに2018年度より財務情報や役員・株式情報などの会社情報を加え、当社の活動をさまざまなステークホルダーのみなさまに継続的にわかりやすくお伝えすることを目的に作成・開示しているものです。

その他報告書基本情報

報告書対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日
(ただし記事・内容は2021年6月までを含む)
発行年月：2021年9月

WEBサイトのご案内

WEBサイトにて本レポートと環境情報に特化した環境データ集をご覧いただけます。

<https://www.cmk-corp.com/csr/>



参考ガイドライン

ISO26000 「社会的責任に関する手引き」
環境省 「環境報告ガイドライン(2018年版)」

CMK 日本シイテムケイ株式会社

〒163-1388 東京都新宿区西新宿六丁目5番1号
新宿アイランドタワー43F
TEL : 03-5323-0231
<https://www.cmk-corp.com/>



CMK Reportは、「植物油インキ」「FSC® 認証紙」を使用しています。
また、印刷工程で有害な廃液を出さない「水なし印刷方式」で印刷し、環境に配慮して製本されています。
